

令和2（2020）年度 部局マネジメント方針

うえだ よういち
上下水道事業管理者 植田 洋一



私の決意

上下水道事業では、蛇口をひねれば水が飲め、洗濯、炊事ができ、使った水は排水口へ流し、雨が降れば浸水を防ぐという市民生活を支えるライフラインとして、欠かすことのできない重要な役割を担っています。

しかしながら、上下水道事業を取り巻く環境は厳しさを増しており、人口減少等による水需要の減少に伴い、水道料金・下水道使用料の減少が続く中、一方では老朽化した上下水道施設の更新や耐震化が急務となっているとともに、今後も発生が懸念される地震や大雨などの大規模災害に対応する危機管理など様々な課題に直面している状況にあります。

このような中、上下水道局の職員一人ひとりが上下水道事業を取り巻く厳しい現状を認識し、徹底した業務の効率化や経営の健全化、経営基盤の強化を進めていかなければなりません。

水道事業といたしましては、今後の水道事業の理想像を示し、その理想像を具現化するための取り組みや方策を示した「新水道ビジョン」の策定や経営の健全化を進める観点から窓口部門の包括的民間委託を進めるとともに、老朽化した水道施設の効率化・効果的な更新等に取り組んでまいります。

下水道事業といたしましては、近年全国で頻発する甚大な災害に備え、令和2年3月に策定した「東大阪市国土強靱化地域計画」に基づき、災害リスクの低減に取り組んでまいります。雨水排水能力を高めるための増補管事業では、昨年度から取り組む「新岸田堂幹線」の整備を推進していくとともに、耐震化対策については、老朽化施設の長寿命化・耐震化事業を進めてまいります。

今後、上下水道事業として管路などの施設の更新・耐震化は、ライフラインとしての上下水道事業の市民サービスに加え、被災時における管路などの被害軽減（ハード対策）と、万一の被害への対応としての危機管理マニュアルの整備による市民への対応の充実及びこれに基づく防災訓練等の実施（ソフト対策）により、危機管理の両輪として機能させてまいります。

上下水道局では、これらの取り組みを確実に実施することによりまして、より一層の「安全・安心」を将来に亘ってお届けできるよう努めてまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願いします。